

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	ヨーロッパコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
-----------------------	------------------------

グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。	ヨーロッパとその周辺地域に対する言語コミュニケーション能力に裏打ちされた実践的知識を基礎に、現代ヨーロッパ社会の目指している、価値の多様性を踏まえた文化的寛容の精神を体得した真の国際人を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。
---	---

学類およびコースのOP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-------------------------	--

【学類のOP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 【コースのOP】 現代ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ生活論、また各教員の担当する特論・演習への参加を通じて、地中海地域を含むヨーロッパ圏の文化・歴史・政治・経済・社会を、一般と深い戦略的視点から考察する意識を育てることを目指している。またそうした知識を踏まえ将来この地域を担当する実務家として活躍する基礎的技能として、ドイツ語・フランス語・スペイン語等のコミュニケーション科目により、言語の実践的運用能力を高められるよう配慮している。	現代ヨーロッパの政治・経済・文化について、将来その分野の専門職人として活動するために、基礎的知識を習得している。 現代に生きる創造力ある世界であると共に、歴史と伝統の深い根を有する世界であるヨーロッパ文化を学ぶ者として、これまでのヨーロッパ文化が産み出してきた思想、文学、芸術等の歴史的諸価値にそれらを理解する豊かな感性を備えている。	それぞれの関心に従って仏・独・西語につき各言語の代表的検定試験(実用フランス語検定技能試験、ドイツ語技能検定、スペイン語技能検定)2級程度、即ち国際的な場で働く意欲のある学生に要求されるコミュニケーション力獲得までスムーズに到達できる基礎的語学力を修得している。	自身のキャリアパスと本コースで学ぶ専門知識を接続させ、自身の進路をプロデュースできる職業設計能力を育んでいる。	ヨーロッパのみならずその周辺諸地域(中央アジア圏、中東アフリカ圏、中南米地域)の社会・文化の理解と労働の場を広く世界に求めることのできる、国際感覚と人間関係構築力を身につけている。	日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。
---	--	---	---	--	---

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
16001	国際学入門	国際学の概要・基礎的概観を把握する	1	*		◎		
16002	国際政治史A	近代東アジア地域の国際関係の展開過程を理解する	2	*		△	△	△
16003	国際政治史B	暗黙の歴史を極力排除する。歴史過程は一定の合理性と法則性の元に進行することを学ぶ。ヨーロッパ理解の基礎を構築する。	2	*		◎		△
16004	国際関係論	主として戦後の国際政治の展開と現状を理解する	2	*		○	△	△
16004	国際関係論	国際政治全体についての理論を検討する。次いで、このテーマ、南北問題、地球環境、地域主義などのグローバルなテーマを理解する。それから、アメリカ、ヨーロッパ、中東を取り上げ、そこでの内政、国際関係を理解する。	2	*		○	○	○
16005	国際コミュニケーション論	主としてマス・メディアに構成された自分たちの知識の源泉を今一度問いつける。我々の価値観なども日本の持つ「イメージ」によって形成されていることを学ぶ。国際人として、自国の枠組みにのみ囚われず、国際的な基礎、公正に、公平にことごとくを判断する力を身につけることを目標とする。	2	*				
16006	国際経済学	国際経済学の基本的モデルを修得する。この理解を通して、具体的な貿易利益、貿易政策の経済効果、国際的分業パターン、国際間労働・資本移動などの種々の事例を理解する。	2	*				◎
16007	世界システム論	1. 政治・経済・文化の一体化した現象を、それぞれの側面に解きほぐしながら、また全体としてとらえ、分析する能力を身に付ける。 2. 世界システムが個々の国や社会のあり方を規定する仕組みを国際経済・貿易の基礎的知識を身に付ける	2	*		◎		○
16008	国際貿易論	グローバル化の現状の下で、新たな国家間の相互依存関係を学ぶ。日常生活における国際貿易に関するさまざまな問題を適正に理解し、判断する力を修得する。	2	*		○	△	○
16009	国際協力論	国際協力・対外援助の必要性と実態を理解する	2	*				○
16010	異文化理解	国際的事象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得する。	2	*				◎
16037	国際経済学概論	グローバル化が進む現在、日本と世界がどのようにつながっているのか、また国際経済関係を考えるためにはどのような視点が必要なのか、その基礎的な知識や理論を学ぶ。	2	*		○		○
16040	国際学特論	短期留学生用の英語による授業から、適切な科目を開放してもらう	2	未定				○
16041	国際公共経済学A	近代500年を通じた国際政治経済の趨勢的变化を理解する。また、国際政治経済学の主要な理論を理解する。	2	*		◎		○
16042	国際公共経済学B	国際法の基本的知識、国際経済法、現代国際法の特徴を理解する。国連について理解する。日本と他の先進国が行う対途上国援助の特徴と問題点について理解する。	2	*		◎		○
16043	国際機構論	国際連合やその関連機関、IMF・世界銀行やWTO、地域的協力組織、国際レジーム等の制度的成立と国際社会における役割を学ぶ。	2	*			○	○
16011	日本文化	戦後の代表的な日本人論・日本論に関する知識を習得するとともに、日本文化の見方を身に付ける	1	*				○
16012	日本の思想と宗教	神と仏との関係を外国人に説明できるようにする	2	*				○
16013	日本史概説	日本の近世史・近現代史に関する理解を深める	2	*				◎
16014	日本経済論	日本資本主義の史的展開を通じて、日本経済の今日的課題を分析・説明する視角を身に付ける。	2	*				○
16015	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の形成と展開を概観し、継承・保存の問題を考える力をつける	2	*				○
16016	日本政治・外交史	幕末維新期～昭和戦前期の日本政治・外交の展開過程を理解する	2	*		△	△	△
16044	日本政治・外交論E	英語による授業で、政治学及び国際関係の専門用語を紹介し、国際的な観点からの日本の政治・外交史を理解する。合わせて、英語のリーディングやリスニング能力を向上させる。	2	*		△	△	△
16018	日本の言語と文化	日本人の言語行動を支配する社会的文化的なルールについての意識を獲得するとともに、他の国々の言語と文化を比較できるようにする。	2	*				△
16045	日本民俗文化論E	英語による授業で日本が長い歴史の中で海外の様々な国の文化と出会いながら、日本独自の伝統文化を築き上げてきたことを主に明治時代以降の日米間の関係を中心に理解する。合わせて、英語のリーディング、リスニング能力を向上させる。	2	*				△
16046	日本語学概論A	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識のうち、文法、文学表記を中心に学び、日本語への理解と関心を深めることができる。	2	*				◎
16047	日本語学概論B	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識のうち、音声、語彙を中心に学び、日本語への理解と関心を深めることができる。	2	*				◎
16021	日本語教育学基礎	・日本語教育をグローバルな視野で概観できる。 ・日本語教育の観点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する。 ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する。	2	*			○	△
16022	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する	2	*			○	△
16023	日本の古典文学	日本の古典文学に関する基礎的な知識を獲得すると共に、その受容の歴史について理解を深める	2	*				○
16024	日本の近現代文学	語りや視点を意識して文学作品を読み解く意識付けができるようになる	2	*				○
16038	日本文化体験A	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2	*				△
16039	日本文化体験B	留学生とともに日本、特に石川県内に様々な形で伝えられる伝統文化、伝統工芸などについて体験を通してその魅力を学ぶ	2	*				△
16048	日本史概説E	英語による授業で、日本の近世から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性を理解し、また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義を理解する。合わせて、英語のリーディングやリスニング能力を向上させる。	2	*				◎
16025	開訳理論 I	英訳生はまず、英文を正確にかつ徹密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2	*		△		○
16026	開訳理論 II	英訳生はまず、英文を正確にかつ徹密に読む力が養われる。また、日本語らしい日本語に置き換えるためのさまざまな工夫も身につく。	2	*		△		○

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	ヨーロッパコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) / **コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)**

グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を育成する。専攻・専攻領域・専攻科目(24単位必修)・選択科目(「インターナショナル」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。

ヨーロッパとその周辺地域に対する言語コミュニケーション能力に裏打ちされた実践的知識を基礎に、現代ヨーロッパ社会の目指している、価値の多様性を踏まえた文化的寛容の精神を体得した真の国際人を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するために、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類およびコースのOP(カリキュラム編成方針) / **コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)**

【学類のOP】
必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターナショナル」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。

【コースのOP】
現代ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ生活論、また各教員の担当する特論・演習への参加を通じて、地中海地域を含むヨーロッパ圏の文化・歴史・政治・経済・社会を、一段と深い戦略的視点から考察する意欲を育てることを目指している。またそうした知識を踏まえ将来この地域を担当する実務家として活躍する基礎的技能として、ドイツ語・フランス語・スペイン語等のコミュニケーション科目により、言語の実践的運用能力を高められるよう配慮している。

現代ヨーロッパの政治・経済・文化について、専攻の専門職人として活動するに相応しい、基礎的知識を習得している。

現代に生きる創造力ある世界であると共に、歴史と伝統の深い根を有する世界であるヨーロッパ文化を学ぶ者として、これまでのヨーロッパ文化が産み出した思想、文学、芸術等の歴史的諸価値にそれぞれを理解する豊かな感性を備えている。

自身のキャリアパスと本コースで学ぶ専門知識を接続させ、自身の進路をプロデュースできる職業設計能力を養っている。

ヨーロッパのみならずその周辺諸地域(中央アジア圏、中近東アジア圏、南米地域)の社会・文化の理解のもと、複眼的に世界を見る目を有している。

他者へ及び多文化への旺盛な関心のもと単に日本に固執するのではなく、生活及び労働の場を広く世界に求めることのできる、国際感覚と人間関係構築力を身に付けている。

日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
10027	英語パブリックスピーキングⅠA	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		○		
10028	英語パブリックスピーキングⅠB	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		○		
10029	英語パブリックスピーキングⅡA	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		○		
10030	英語パブリックスピーキングⅡB	様々な発話形態に応じた必要な基本的能力を身につける。	1~2	*		○		
10031	英語表現法ⅠA	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を熟読し、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*		△		
10031	英語表現法ⅠA	1.To improve reading, speaking, listening and writing in English. 2.To learn to participate actively in an all-English environment. 3.To develop a clear understanding of various international perspectives and varying Japanese perspectives related to Japan's political history.	1~2	*		△	△	△
10032	英語表現法ⅠB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を熟読し、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*		△		
10033	英語表現法ⅡA	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を熟読し、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*		△		
10034	英語表現法ⅡB	文法事項のおさらいに始まり、かなり内容のある英文を熟読し、エッセイライティングをおこなうまでのライティングの力を身につける。	1~2	*		△		
10035	英語コミュニケーションⅠ	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*		△		
10038	英語コミュニケーションⅡ	みずからの目的に応じた、英語コミュニケーション能力が増強できる。	1~2	*		△		
51401	西洋近・現代史概論	近代ヨーロッパにおける民主主義、民族主義発展の諸相を考察し、近代国家ないしは市民社会の本質につき理解を深める。	2	H23		○	◎	
51402	西洋経済史A	近代から現代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、 1. 経済学的な分析手法の基礎を習得することができる。 2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的基礎を理解することができる。	2		H23	◎	○	
51403	西洋経済史B	古代から近代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、 1. 経済史から経済学アプローチする手法を身に付けることができる。 2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的基礎を理解することができる。	2	H23		◎	○	
51404	現代ヨーロッパ社会論	ヨーロッパの現代社会が抱えているさまざまな問題についての分析・議論を通じて現代ヨーロッパについての理解を深める。それと同時に日本の現代社会への視座をも獲得する。	2	H23		◎		◎
51405	ヨーロッパの宗教	ヨーロッパの宗教、特にキリスト教についての知見を広げ、ヨーロッパをよりよく理解できるようにする。	2		H23	◎	○	△
51406	社会思想史A	現代社会が抱える自由・平等、人権、マイノリティ問題を考えるさいの方法的視野を広げる。	2			○	◎	△
51407	社会思想史B	現代社会が抱える自由・平等、人権、マイノリティ問題を考えるさいの方法的視野を広げる。	2			○	◎	△
51408	ヨーロッパ経済統合論A	EU統合の歴史と制度の検討を通して、EUとは何か、EUは何をめざしているのかを理解する。	2	H23		◎		○
51408	ヨーロッパ経済統合論B	EUの経済通貨統合の歴史と現状の検討を通してユーロ・システムの課題と展望を理解する。	2		H23	◎		○
51410	美術史Ⅰ	西洋美術の流れを様式史として把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2	H23		◎		
51411	美術史Ⅱ	西歐におけるルネサンス美術について、その時代背景を踏まえて、作品の主題と表現を考察できるようにする。	2		H23	◎		
51412	ヨーロッパ社会言語学	母語の言語行動の自明性を相対化し、異文化間コミュニケーションの問題に関心をもてるようにする。	2		H23			△
51413	ドイツ文学史A	ドイツ文学の歴史(ロマン主義まで)についての知見を獲得し、ドイツ文化をよりよく理解できるようにする。	2	H23		◎		
51414	ドイツ文学史B	ドイツ文学の歴史(写実主義から)についての知見を獲得し、ドイツ文化をよりよく理解できるようにする。	2		H23	◎		
51415	フランス文学史A	フランス文学にどんな作品があり、どんな特徴があるのかを、歴史的背景をふまえて確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。他ジャンルの芸術との関連も考察する。	2	H23		◎		○
51416	フランス文学史B	フランス文学にどんな作品があり、どんな特徴があるのかを、歴史的背景をふまえて確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。他ジャンルの芸術との関連も考察する。	2		H23	◎		○
51445	ヨーロッパ生活論E	ヨーロッパの生活習慣、年中行事、文化などを知ることで、ヨーロッパをよりよく理解できるようにする。	2			○	◎	△
51446	ヨーロッパ研究特論	飲食表象およびそれと関連した形での風景の表象の歴史的社会的構築とその変容の歴史の批判的検討を通して、以下に2つのことを学んでほしいと思います。1)ヨーロッパの飲食文化の在り方を、その文化的価値の面を軸に多面的に理解する。2)見過ごされがちな日常的な文化現象について、その背後に作用する近代イデオロギーへの批判的な眼差しを養う。	2~4			○	○	
51421	ヨーロッパ圏理解A	フランスとの相互関係が重要な意味を持つマダガスカル地域の歴史、社会、文化について理解を深めさせる(総合)	2		H23	○	◎	△
51421	ヨーロッパ圏理解A	ドイツ語圏の文化・社会についての知識を深める。	2	H23		○	◎	△
51421	ヨーロッパ圏理解A	フランスの文化について知識を深める。フランス語圏地域の基本的知識を得る。	2	H23		○	◎	△
51422	ヨーロッパ圏理解B	イタリア史についての基本的知識を習得させる(石黒)	3	H23		○	◎	△
51422	ヨーロッパ圏理解B	ドイツ語で書かれた文学テクストを読むことで、ヨーロッパ文化に対する理解を深める	3	H23		○	◎	△
51422	ヨーロッパ圏理解B	フランスの文化について知識を深める。フランス語圏地域の基本的知識を得る。	3	H23		○	◎	△
51423	ドイツ語読解基礎	ドイツ語の基礎的な読解力を習得する。	2	H23		◎	○	△
51423	ドイツ語読解基礎	ドイツ語の基礎的な読解力を習得する。	2	H23		◎	○	△
51424	ドイツ語コミュニケーション1	ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	2	H23		◎	○	△
51425	ドイツ語コミュニケーション2A	ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	2	H23		◎	○	△
51426	ドイツ語コミュニケーション2B	ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	2	H23		◎	○	△
51427	ドイツ語コミュニケーション3A	ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	3~4	H23		◎	○	△
51428	ドイツ語コミュニケーション3B	ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	3~4	H23		◎	○	△
51429	ドイツ語コミュニケーション4	ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	3~4	H23		◎	○	△
51430	ドイツ語表現法	ドイツ語の基礎的な作文能力を習得する。	3~4	H23		◎	○	△

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	ヨーロッパコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を有し、専攻領域の業務を活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。		ヨーロッパとその周辺地域に対する言語コミュニケーション能力に裏打ちされた実践的知識を基礎に、現代ヨーロッパ社会の目指している、価値の多様性を踏まえた文化的寛容の精神を体得した真の国際人を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。	
学類およびコースのOP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)	
【学類のOP】 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 【コースのOP】 現代ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ生活論、また各教員の担当する特論・演習への参加を通じて、地中海地域を含むヨーロッパ圏の文化・歴史・政治・経済・社会を、一段と深い戦略的視点から考察する意識を育てることを目指している。またそうした知識を踏まえ将来この地域を担当する実務家として活躍する基礎的技能として、ドイツ語・フランス語・スペイン語等のコミュニケーション科目により、言語の実践的運用能力を高められるよう配慮している。		現代ヨーロッパの政治・経済・文化について、将来の分野の専門職人として活動するために、基礎的知識を習得している。	
コース(専攻)のカリキュラム			
科目番号	授業科目名	学生 の学 習 目 標	学 年 前 期 後 期
51431	フランス語演習(読む・書く)A	現代フランス事情に通じる。自然なフランス語によるコミュニケーション能力のファーストステップを身につける。現場で役にたつ形で文法をおさらいし発展させる。将来国際的場におけるフランス語コミュニケーション能力を身につけるために必要な語学知識と一般知識の基礎を学ぶ。フランス語話者の書いて(言っている)ことの真意が実感をもって分かる。こちらからフランス語話者へ効果的に気持ちを、意思を通じさせられるような書き方(話し方)を身につける。フランス語と英語を関連付け相乗効果で両言語の能力をアップさせる。	2 H23
51432	フランス語演習(読む・書く)B	現代フランス事情に通じる。自然なフランス語によるコミュニケーション能力のファーストステップを身につける。現場で役にたつ形で文法をおさらいし発展させる。将来国際的場におけるフランス語コミュニケーション能力を身につけるために必要な語学知識と一般知識の基礎を学ぶ。フランス語話者の書いて(言っている)ことの真意が実感をもって分かる。こちらからフランス語話者へ効果的に気持ちを、意思を通じさせられるような書き方(話し方)を身につける。フランス語と英語を関連付け相乗効果で両言語の能力をアップさせる。	2 H23
51433	フランス語演習(聞く・話す)A	・日常生活におけるコミュニケーション能力を向上させる。 ・簡単な文章を聞いて話したりするための表現力を伸ばす。 ・フランス語圏の文化に触れながら異文化問題について考える。	2 H23
51434	フランス語演習(聞く・話す)B	・日常生活におけるコミュニケーション能力を向上させる。 ・簡単な文章を聞いて話したりするための表現力を伸ばす。 ・フランス語圏の文化に触れながら異文化問題について考える。	2 H23
51435	フランス語演習(口頭表現法)A	日常生活に関するテーマで、フランス語で会話できる能力を見につける。自国の文化と異文化を比較し考える能力を見につける。	3~4 H23
51436	フランス語演習(口頭表現法)B	日常生活に関するテーマで、フランス語で会話できる能力を見につける。自国の文化と異文化を比較し考える能力を見につける。	3~4 H23
51437	フランス語演習(総合)A	現代フランス事情を知る。自然なフランス語によるコミュニケーション能力の基本を身につける。現場で役にたつ形で文法をおさらいし発展させる。中級以上で国際的場におけるフランス語コミュニケーション能力を身につけるために必要な語学知識と一般知識の基礎を学ぶ。アラブ、アフリカ地域についてフランス語情報から見識を深める。フランス語話者の書いて(言っている)ことの真意が実感をもって分かる。こちらからフランス語話者へ効果的に気持ちを、意思を通じさせられるような書き方(話し方)を身につける。フランス語と英語を関連付けて学習し両言語の能力をアップさせる。 ○自然なフランス語によるコミュニケーション能力の基本を身につける。 ○現場で役にたつ形で文法をおさらいし発展させる。 ○中級以上で国際的場におけるフランス語コミュニケーション能力を身につけるために必要な語学知識と一般知識の基礎を学ぶ。 ○アラブ、アフリカ地域についてフランス語情報から見識を深める。 ○フランス語話者の書いて(言っている)ことの真意が実感をもって分かる。 ○こちらからフランス語話者へ効果的に気持ちを、意思を通じさせられるような書き方(話し方)を身につける。 ○フランス語と英語を関連付けて学習し両言語の能力をアップさせる。	3~4 H23
51438	フランス語演習(総合)B	現代フランス事情を知る。自然なフランス語によるコミュニケーション能力の基本を身につける。現場で役にたつ形で文法をおさらいし発展させる。中級以上で国際的場におけるフランス語コミュニケーション能力を身につけるために必要な語学知識と一般知識の基礎を学ぶ。アラブ、アフリカ地域についてフランス語情報から見識を深める。フランス語話者の書いて(言っている)ことの真意が実感をもって分かる。こちらからフランス語話者へ効果的に気持ちを、意思を通じさせられるような書き方(話し方)を身につける。フランス語と英語を関連付けて学習し両言語の能力をアップさせる。	3~4 H23
51439	スペイン語コミュニケーションⅠA	スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	2 H23
51440	スペイン語コミュニケーションⅠB	スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	2 H23
51441	スペイン語コミュニケーションⅡA	スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	2 H23
51442	スペイン語コミュニケーションⅡB	スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	2 H23
51450	スペイン語コミュニケーションⅢA	スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	3~4 H23
51451	スペイン語コミュニケーションⅢB	スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	3~4 H23
51452	スペイン語コミュニケーションⅣA	スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	3~4 H23
51453	スペイン語コミュニケーションⅣB	スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を習得する。	3~4 H23
51443	ヨーロッパ研究演習A	卒論執筆上の基本の技能、即ち関連文献検索、情報の整理、文章の論理的構成、注の作成等ができる。	3 H23 H23
51443	ヨーロッパ研究演習A	興味あるテーマをみつける。論文、つまりほかの人の批判に耐える形の文章の書き方を習得する。	3 H23 H23
51444	ヨーロッパ研究演習B	教員とのディスカッションを通じて、習得した知識を前提に独自の研究課題を発見させる。	4 H23 H23
51444	ヨーロッパ研究演習B	興味あるテーマをみつける。論文、つまりほかの人の批判に耐える形の文章の書き方を習得する。	4 H23 H23
38001	インターンシップ	・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での業務内容を理解できる。 ・民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等での国際的な業務についても理解できる。 ・自らに適合した将来の進路を選択する能力を向上させる	3 H23
38002	卒業論文	習得した知識を踏まえ自己の専攻分野につき、問題発見/情報収集/情報分析/問題解決というモデルにそって思考史、それを文章表現する技能身につける	4 H23
38150	異文化体験実習Ⅰ(海外)	海外等での語学研修やボランティア活動等に参加して、コミュニケーション力を習得し、さまざまな文化に親しむ。	2~4 H23 H23
38151	異文化体験実習Ⅰ(ドイツ)	ドイツでのサマースクールに参加してドイツ語のコミュニケーション力をつけるとともにドイツの文化や生活に親しむ。	2~4 H23 H23

学域名	人間社会学域
学類名	国際学類
コース名	ヨーロッパコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)							
グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との(しなやかな共生)を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への関心と探求心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標への到達を通じて、この学類の人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。					「ヨーロッパとその周辺地域」に対する言語コミュニケーション能力に裏打ちされた実践的知識を基礎に、現代ヨーロッパ社会を目指している、価値の多様性を踏まえた文化的寛容の精神を体得した真の国際人を育成する。こうした人材養成目標に到達した者に学士(国際学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げるために求められる。							
学類およびコースのOP(カリキュラム編成方針)					コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)							
<p>【学類のOP】</p> 必修科目(「国際学入門」、「日本文化」、「卒業論文」)、専門基礎選択必修科目(国語・社会系10単位、日本文化系8単位、英語系12単位)、専門選択必修科目(24単位必修)、選択科目(「インターンシップ」、「異文化体験実習」を含む22単位)など、多彩な科目群を設定し、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成のために、少人数でおこなう演習を中心とした、課題探求型の自己学習を指導する。 <p>【コースのOP】</p> 現代ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ生活論、また各教員の担当する特論・演習への参加を通じて、地中海地域を含むヨーロッパ圏の文化・歴史・政治・経済・社会を、一段と深い戦略的視点から考察する意識を育てることを目指している。またそうした知識を踏まえ将来この地域を担当する実務家として活躍する基礎的スキルとして、ドイツ語・フランス語・スペイン語等のコミュニケーション科目により、言語の実践的運用能力を高められるよう配慮している。					現代ヨーロッパの政治・経済・文化について、将来この分野の専門職業人として活動するに相応しい、基礎的知識を習得している。 現代に生きる創造力ある世界であると共に、歴史と伝統の深い根を有する世界であるヨーロッパ文化を学ぶ者として、これまでのヨーロッパ文化が産み出した思想、文学、芸術等の歴史的諸価値に対しそれを理解する豊かな感受性を備えている。 それぞれの関心に従って仏・独・西語につき各言語の代表的検定試験(実用フランス語検定技能試験、ドイツ語技能検定、スペイン語技能検定)2級程度、即ち国際的な場で働く意欲のある学生に要求されるコミュニケーション力獲得までできる基礎的語学力を修得している。 自身のキャリア・パスと本コースで学ぶ専門知識を接続させ、自身の進路をプロデュースできる職業設計能力を育んでいる。 ヨーロッパのみならずその周辺諸地域(中央アジア圏、中近東アジア圏、中南米地域)の社会・文化の理解のもと、複眼的に世界を見る目を有している。 他者へ及び多文化への旺盛な関心のもと単に日本に固執するのではなく、生活及び労働の場を広く世界に求めることのできる、国際感覚と人間関係構築力を身につけている。 日本の文化・社会・歴史や日本語についてグローバルな視点から客観的に観察できる態度と能力を獲得している。							
コース(専攻)のカリキュラム												
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期							
36152	異文化体験実習Ⅰ(フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランスでの生活体験や課題の達成を通して、フランスの文化に親しむ。	2~4	H23		○	○	○		○	△	
36153	異文化体験実習Ⅰ(中国)	中国の社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上	2~4	H23					○	○	○	
36154	異文化体験実習Ⅰ(中国)	中国の社会・文化への理解の促進と中国語能力の向上	2~4	H23					○	○	○	
36155	異文化体験実習Ⅰ(イギリス)	たんなる語学研修に終わらない、イギリスに関する幅広い知識が習得でき、また、イギリスの人や風土とじかに接することができる。	1~4	H23							◎	○
36201	異文化体験実習Ⅱ(海外)	異文化体験実習Ⅰで学んだ語学の習得	2~4	H23				◎	○		△	
36202	異文化体験実習Ⅱ(ドイツ)	異文化体験実習Ⅰで学んだドイツ語の習得	2~4	H23				◎	○		△	
36203	異文化体験実習Ⅱ(フランス)	フランスの大学での語学研修に参加し、フランス語の運用能力を高める。フランス語検定試験で適切な級の認定を受ける。	2~4	H23		○	○	○		○	△	
36204	異文化体験実習Ⅱ(中国)	中国語検定試験二級合格を目指す。	2~4	H23					○		○	
36205	異文化体験実習Ⅱ(イギリス)	ケンブリッジ語学研修を通して、さらなる英語の力を身に付けるとともに、イギリスの語文化、歴史にじかに触れることで、英国の層の厚さを理解する。	1~4	H23		◎	○				○	○